

## 2015 年度前期 授業評価アンケート結果に対するコメント

—法学部—

法学部長 鋤 本 豊 博

授業評価の目的は、授業の質を高めて大学教育の改善を図ることにあり、各教員はアンケート結果を教育改善につながる資料として活用することが期待されている。しかし、教員側に、教育の質向上に有用な潜在的情報を取り出す技能がないと、その効果は著しく限定されるだけでなく、誤った受け止め方をしてしまう恐れもある。

学部の場合、いつも気になるのは「予習または復習をよくした」という評価項目であり、昨年度に比べ微減している（平均値 3.28 から 3.24）。その反面、「総合的にこの授業を評価できる」という評価項目が微増している（平均値 4.29 から 4.37）。平均値の約 1.0 という有意的な差もさることながら、この相反する傾向は、分かりやすい授業なので予習・復習が少なくて済むと受け止めて良いのか、予習・復習が少なくて済むから良い授業と評価していると受け止めるべきなのか、判断に迷うところである。心理学的測定ないし統計の知識を習得する必要性を感じている。